

線型空間 その2

- 4.2 一般の線形空間
- 4.3 線形空間の基底
- 4.4 1次独立性と行列式
- 4.5 計量線形空間
- 4.6 グラムシュミットの直交化

前回：

線形空間：ベクトルはどのような性質を持つか：「和とスカラー倍に関して閉じている」

用語：

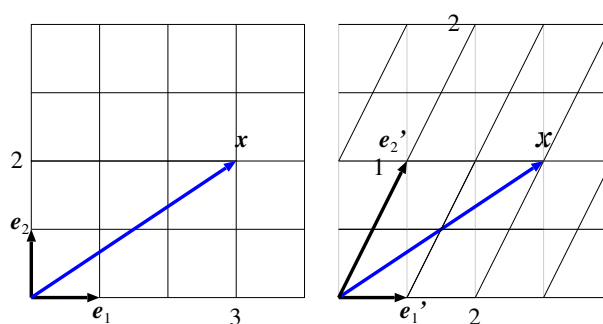
- 基底，線形結合 = 一次結合，
- 一次独立（線形独立），一次従属（線形従属），線形空間の次元
- 行列の次元，階数（ランク），前期：行列式

今回：これらの概念の直観的な説明をおこなった．

4.3 線形空間の基底

（p.86-87：一次従属，一次独立，線形空間の次元，線形空間の基底）

直観的な説明．まず本質を理解してから，教科書の定義を理解する．



図の x 点の座標： $x = \begin{bmatrix} 3 & 2 \end{bmatrix}^T$ ．別の座標系で考えると $x' = \begin{bmatrix} 2 & 1 \end{bmatrix}^T$ ．

考えている座標系が違う 基底ベクトル（basis vector）が違う．基底：考える土台．

$$e_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, e_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}, e'_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, e'_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$$

x の実体一つ．どの基底で表現しても同じ：

$$x = 3e_1 + 2e_2 = 2e'_1 + e'_2$$

長さはどうなるのか． $\|x\| = \sqrt{3^2 + 2^2} = \sqrt{13} \neq \sqrt{2^2 + 1^2} = \sqrt{5}$

答え：内積を $(x, y) = x^T \begin{bmatrix} 1 & b \\ b & c \end{bmatrix} y$ と定義すればよい．

定数は $(e_1, e_1) = 1, (e_2, e_2) = 5, (x', x') = 13$ となるように決めればいい． 計量線形空間
戻る： より一般的に書くと：

$$x = \sum_{j=1}^n x_j e_j = \sum_{i=1}^n x'_i e'_i$$

こういうものを基底ベクトルの 線形結合 という．

「この平面上のどんなベクトル x も，これらの基底ベクトルの線形結合で表現できる」
直観的には，これはあたりまえ．

特殊な状況をわざわざ考えてみる．

$$e_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}, e_2 = \begin{bmatrix} -1 \\ -2 \end{bmatrix}$$

$$x = a e_1 + b e_2$$

基底ベクトルは，同じく 2 本ある． 平面上のどんなベクトルも表現できるか
 a, b をいろいろな値に変えてみる． 直線の外の点は表現できない．

この空間は，一次元（直線上）の空間． ベクトル空間の次元．

ベクトルの組 $\{v_1, v_2, \dots, v_r\}$ を考える．線形独立（1 次独立）

どのベクトルも他のベクトルの線形結合で表せない． \rightarrow ベクトルの組は 1 次独立．

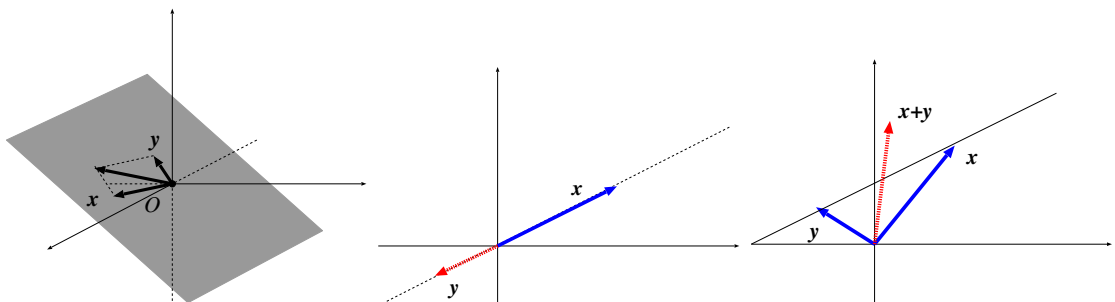
線形従属（1 次従属）： どれか一つのベクトルが他のベクトルの線形結合で表せる．

- 線形結合（一次結合）

$$c_1 v_1 + c_2 v_2 + c_3 v_3 + \dots + c_r v_r$$

定義

線形空間 V のベクトル v_1, v_2, \dots, v_r を用いて， V の任意のベクトルを 1 次結合として表すことができるとき，ベクトル v_1, v_2, \dots, v_r は線形空間 V を張るという．



「 x, y の張る空間」

復習：ベクトル空間（線形空間）とは集合 $V : \forall x, y \in V, x + y \in V, ax \in V$
「集合 V は、定数倍と和に関して閉じている」

(a) 部分空間（例題 4.1）：「和とスカラー倍に関して閉じている」

$u, v \in W, W \subset V$ とする。どんな u, v に対しても、 $u + v \in W$ かつ $ku \in W$ が成り立つなら集合 W を線形部分空間という。

- 例

R^3 内の原点を通る平面や直線は、 R^3 の部分空間になっている。

片方を、もう一方（残りのベクトル）の線形結合で書ける。 e_1 と e_2 は線形従属。
片方を、もう一方（残りのベクトル）の線形結合で書けない。 e_1 と e_2 は線形従属。

定義 4.4（p.87）によると、線形独立でない基底ベクトルとは、呼べない。

定義：線形空間 V の次元（p.87）

4.4 1次独立性と行列式

4.4 1次独立性

- 線形独立（一次独立）

どのベクトルも他のベクトルの線形結合で表せないならば、ベクトルの組 $\{v_1, v_2, \dots, v_r\}$ は線形独立（一次独立）であるという。

- 線形従属（一次従属）

どれか一つのベクトルが他のベクトルの線形結合で表せる。

例題 4.5 は重要。例題 4.6 (2) は知らない解けない。

4.5 計量線形空間

内積の性質

内積の公理：

(a) 線形性 $(c_1x_1 + c_2x_2, y) = c_1(x_1, y) + c_2(x_2, y)$

(b) 対称性 $(x, y) = (y, x)$

(c) 正値性 $(x, x) \geq 0$, 0 は $x = 0$ のときに限る

計量線形空間：内積が定義された線形空間のこと。

自分自身との内積でベクトルのノルム（長さ）を定義する。

$$\|x\|^2 = (x, x)$$

したがって自分自身との内積は正になるよう内積を定義する。複素数の場合。

例： $a = \begin{bmatrix} 1 \\ i \end{bmatrix}, b = \begin{bmatrix} 1 \\ 2i \end{bmatrix}$

$$\|a\|^2 = (a, a) = a^T a = 1 - 1 = 0$$

というのはおかしいので、

$$\|a\|^2 = (a, a) = a^T \bar{a} = 1 + 1 = 2$$

と一方の要素を複素共役をとり定義する .

$$(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = \mathbf{a}^T \bar{\mathbf{b}} = \begin{bmatrix} 1 & i \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -2i \end{bmatrix} = 1 + 2 = 3$$

$$(\mathbf{b}, \mathbf{a}) = \mathbf{b}^T \bar{\mathbf{a}} = \begin{bmatrix} 1 & 2i \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ -i \end{bmatrix} = 1 + 2 = 3$$

この場合は内積が実数値だったので $(\mathbf{a}, \mathbf{b}) = (\mathbf{b}, \mathbf{a})$ が成り立っている .

正規直交基底

$$\mathbf{e}_i \cdot \mathbf{e}_j = \begin{cases} 1 & (i = j) \\ 0 & (i \neq j) \end{cases}$$

どの基底ベクトルも長さが1で , どの基底ベクトル同士も互いに直交している .

とてもよい性質がある .

$$\mathbf{v} \cdot \mathbf{e}_1 = (a\mathbf{e}_1 + b\mathbf{e}_2, \mathbf{e}_1) = (a\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_1) + (b\mathbf{e}_2, \mathbf{e}_1) = a(\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_1) + b(\mathbf{e}_2, \mathbf{e}_1) = a$$

ふつうの平面座標でも , 正規直交基底のとり方は無数にある .